

議案第 1 号

令和7年度 事業所別事業報告

事業所 【 法人本部 】

I 令和7年度の状況

最低賃金の上昇による人件費の増加に加え、物価高騰に伴う各種支出の増加が、事業運営に大きな負担となっている。また、通所介護事業所においては、利用者数の減少により収入が落ち込み、近年は資金収支差額をほとんど確保できない状況が続いている。

今後の主な課題は以下のとおりである。

- ① 事業内容の見直し
- ② 人員配置の適正化
- ③ 業務改善による効率化
- ④ 利用者確保に向けた取り組み強化による収入回復

これらの改善を着実に進めることで、安定した運営体制の再構築を図る必要がある。

II 評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	コンプライアンス（法令遵守）の強化	- 鳥取県社会福祉法人指導監査：居宅介護（指摘事項なし） 通所介護/三朝（文書指摘事項なし） - 児童福祉行政指導監査：賀茂保育園（指摘事項なし） - 三朝町運営指導：グループホーム（指摘事項なし） - 法令遵守及び虐待防止に努めた。 - 全体会（研修）「交通安全」「職業倫理法令遵守」「虐待防止」実施した。
	②	非常時における安全確保・対策	- 防災訓練回数 三朝温泉三喜苑 避難訓練 2回実施した。（日中想定1回・夜間想定1回） 夜間通報訓練 2回実施した。（そのうち1回は抜き打ちで実施） 完全停電 非常災害訓練 1回実施した。（日中） グループホーム仁の里 避難訓練 2回実施した。（日中想定1回・夜間想定1回） 三喜苑西郷（通所介護） 避難訓練 1回実施した。（日中想定1回） - 全体会（研修）「防災研修」実施した。 - 職員の労働災害：業務災害3件（口腔内を切る・骨折（入院）・頭部裂傷） （令和5年度：2件／令和6年度：2件）
	③	職員の確保と定着	- 苦情相談受付件数 6件 （令和6年度：6件） 毎月苦情解決委員会を開催し、苦情、相談、質問について内容を確認し、対応策や解決結果について確認した。 - 苦情解決第三者委員会を開催し、発生した苦情解決状況等を説明及び意見聴取した。（年間2回／4月、1月実施） - 職員状況 採用7名・退職8名 - 労働者不足の対策 公共職業安定所（ハローワーク）の活用、有料紹介会社へ情報収集・発信した。 （採用経路：ハローワーク（1名）、有料紹介会社（2名）、職員の知り合いの紹介など（4名）） - 育児休業中の職員への情報提供や情報収集にも努め、スムーズな職場復帰へ確認・調整した。 - 感染症対策を整備し感染予防に努めた。 マニュアルの見直し 地域の感染状況に合わせて、面会を実施（施設内又は面会室での面会） 利用者の新型コロナウイルスワクチン集団接種（1回）を実施した。 抗原検査キットを購入し、職員の同居家族が感染した場合に感染状況確認のため検査を実施した。
能力開発	①	職員個々の資質向上（研修参加・資格取得支援と受講・内部研修の充実）	- 各種研修会を毎月実施 全体会（年間12回開催）：平均95名参加あり。（令和6年度：平均 90名参加） 職員研修（年間7回）：平均19名参加あり。（令和6年度：平均 25名参加） *全体会…予備日を設けて研修に参加しやすい体制に変更した。 - 施設外研修 延べ107名参加（令和6年度：延べ 173名） - 新人研修（年間2回）：対象者 3名受講

能力開発	①	職員個々の資質向上（研修参加・資格取得支援と受講・内部研修の充実）	- 令和7年度実績（取得状況） 介護施設における安全対策担当者養成研修 6名 認知症介護実践者研修 1名 介護支援専門員 1名 介護支援専門員更新研修 3名 喀痰吸引等研修指導看護師等研修 1名 - 鳥取県保育士等 キャリアアップ研修専門分野別研修 2名 （②幼児教育 1名、⑥保護者支援・子育て支援 1名） - 施設内研修（新人研修・職員研修・全体会）については、アンケートを実施し研修の評価・振り返りを行った。
	②	給与・働き方に関する規程の見直し（同一労働同一賃金への対応）	- 年次有給休暇の確実な取得に向けた仕組みについて、新規採用者研修時の説明や衛生委員会、リーダー会への情報提供、法人本部近況報告等により周知した。 - 鳥取県最低賃金改定と保育事業における処遇改善加算の単価改正に伴い、役職員給与規程を改正した。（鳥取県最低賃金957円から1,030円に引き上げられた）
	③	業務の見直しと効率化（業務手順の見直しと統一）	- WEB会議ツール「ZOOM」を活用して、委員会、研修、他事業所とのカンファレンス（会議）等を実施した。 - 令和5年度に設置したインカム、グループウェアの活用ができていない。引き続き業務改善に繋がるよう検討する。 ※ インカム：インターコミュニケーションシステム 無線機器の一種 ※ グループウェア：スケジュールや業務管理などのソフトウェア
地域	①	職員の派遣（研修講師・介護教室など）／ボランティアの活用・見直し	- ボランティア受入150名（令和6年度：77名） - 講師派遣（9回派遣）… 福祉専門学校就職説明会 1回 鳥取県老人クラブ連合会主催介護教室 4回 三朝町社会福祉協議会主催健康教室 4回 （令和6年度：17回派遣） - 施設参観日 参加者 6名（令和7年度初めての取り組み）
	②	情報開示・発信（HP・広報誌）	- 情報公開（決算状況）：ホームページ（HP）に情報を掲載（公表）した。（法人事務所（玄関）でも情報公開している。） - 福生会ニュース（ホームページ上の名称） 月平均107件情報発信した。（令和6年度：平均98件） - 各事業所の重要事項説明書を公表（書面掲示及びホームページ公表） - 機関紙「太陽」年4回発行した。（118号～122号） - 表彰受賞：交通安全、ラジオ体操優良団体等
	③	カネ：社会福祉充実残額の算定と計画	- 令和6年度における社会福祉充実残額は△492,670,000円のため、社会福祉充実計画の策定は不要ではあるが、公益的取り組み（地域貢献）は実施した。 - 公益的取り組み：介護予防教室への講師派遣 等 - エコキャップ運動に参加（地域貢献委員会） - 利用者負担軽減制度の実施：対象者 2名 - 福生会まつりを開催：利用者と利用者家族、地域住民へ声をかけた - 地域行事への参加：職員と職員家族でキューリー祭わいわいパレードに参加した - 論語三代：講師の都合により中止となった - 認知症カフェ（わらわあ会）… 1回
業務	①	支出管理の強化	月毎の収入や予算執行状況を所属長等に報告し、収支状況等の情報共有を図った。（運営会議及び月次決算報告書など）
	②	設備投資と計画（エコ・大型機器の入れ替え・計画）	- 補助金事業 4,537,500円 （公益財団法人JKA 競輪とオートレースの補助事業/特殊浴槽） - 大型機器の入替え等… 特殊浴槽（OG/ジュスト）
	③	法人本部の機能強化及び「組織」の見直し	- 現況報告書（定期報告）の提出。 - B C P（業務継続計画）を全体会研修で説明した。 - 役職員の人事（異動、採用、更新など）

令和7年度 役員会等実施状況

日 付	会議名(開催時間)	主な議案・報告事項
令和7年5月16日	監査会 9:00～	○ 令和6年度 事業の監査
令和7年5月25日	第114回理事会 9:00～	○ 令和6年度 各事業 事業報告及び収支決算について ○ 理事の辞任及び理事選任候補者の推薦について(新任) ○ 理事及び監事候補者の推薦について(重任) ○ 評議員の辞任及び評議員選任候補者の推薦について(新任) ○ 評議員選任候補者の推薦について(重任) ○ 評議員選任・解任委員会の開催について ○ 評議員会の開催について ○ 運営規程の一部改正について(賀茂保育園) ○ 職務執行状況について(報告) ○ 令和6年度 社会福祉充実残額について(報告) ○ 令和6年度 社会福法人指導監査是正・改善状況報告(法人本部) ○ 軽費老人ホーム事務費(補助基準額)単価(報告) ○ 令和7年度 社会福祉法人福生会 組織図(報告)
令和7年6月2日	第6回評議員選任・解任委員会 10:00～	○ 評議員の辞任について ○ 評議員の選任について
令和7年6月13日	第83回評議員会 10:00～	○ 令和6年度 各事業 事業報告及び収支決算について ○ 理事の辞任及び理事候補者の選任について(新任) ○ 理事及び監事候補者の選任について(重任) ○ 評議員選任・解任委員会の結果について ○ 令和6年度 社会福祉充実残額について(報告) ○ 社会福祉法人指導監査是正・改善状況報告書(法人本部) ○ 令和7年度 社会福祉法人福生会 組織図(報告)
令和7年6月15日	第115理事会 9:00～	○ 理事長の選定について ○ 業務執行理事の選定について ○ 運営協議会 委員の選任について
令和7年11月9日	第116回理事会 9:00～	○ 令和7年度 各事業 追加補正予算について ○ 令和7年12月支給分 勤勉手当の支給月数について ○ 役職員給与規程の一部改正について ○ 職務執行状況について(報告) ○ 令和6年度 指定管理業務評価通知書(賀茂保育園) ○ 労働基準法、労働安全衛生法 是正・改善報告書
令和8年3月8日	第117回理事会 9:00～	○ 令和7年度 各事業 追加補正予算について ○ 令和8年度 医療法人清生会 谷口病院との医師派遣契約について (配置医師/リハビリ専門員)(類型契約:協力医療機関委託契約) ○ 令和8年度 ララ歯科クリニックとの協力医療機関契約について (協力歯科医師)

		○ 運営規程の一部改正について (介護老人福祉施設、短期入所生活介護事業所、グループホーム 通所介護事業所/三朝温泉三喜苑・三喜苑西郷、賀茂保育園) ○ 介護保険外(自立)利用者 利用料の改正について (通所介護事業所/三朝温泉三喜苑・三喜苑西郷) ○ 令和8年度 各事業 事業計画及び予算について ○ 令和8年度 役員等賠償責任保険契約について ○ 役職員給与規程の一部改正について ○ 経理規程一部改正について ○ 職務執行状況について(報告) ○ 介護保険法に基づく運営指導及び業務管理体制確認検査の結果について (通所介護事業所/三朝温泉三喜苑)
--	--	--

【令和 7年度の苦情解決に関する委員会】

日 付	会議名(開催時間)	主な議案・報告事項
令和7年4月8日	苦情解決 10:30～ 第三者委員会	○ 令和6年度の苦情相談受付の報告 ○ 当事業所にて発生した苦情解決状況について 説明及び意見聴取
令和8年1月9日	苦情解決 11:30～ 第三者委員会	○ 当事業所にて発生した苦情解決状況について 説明及び意見聴取

＊令和7年度(年間)苦情相談受付件数:6件 (昨年度:6件)

- 苦情相談の内容 ・ サービスの内容(職員の接遇)に関すること …… 2件
- ・ サービスの内容(サービスの質や量)に関すること … 2件
- ・ 説明・情報提供に関すること … 1件
- ・ その他 … 1件

＊苦情内容については機関紙「太陽」で公表している

＊その他「苦情解決委員会」を毎月開催。 苦情・相談・質問等について、毎月検討している。

(構成メンバー:苦情解決責任者、苦情受付担当者等)

議案第 2号

令和7年度 事業所別事業報告

事業所 【 介護老人福祉施設 】

I 令和7年度の状況

- ・令和7年度はコロナウイルス、インフルエンザA型の施設内での感染があり、2回の感染症対応を行った。クラスターとはならなかったが、職員の感染もあり、引き続き感染対策の徹底が求められる。
- ・入所者の平均介護度は3.9で平均年齢は88.0歳となっている。透析や医療依存度の高い入所者も多く、家族や医療機関と連携しながら、施設ででき得る対応を実施してきた。
- ・今年度の看取りケア対象者は19名であった。引き続き看取りケアの推進にも努め、最期まで慣れ親しんだ施設で生活が送れるよう、各職種が連携を図り早めの対応に努めていく。
- ・入院者は1日平均6.0名。目標数（5.5名／日）を達成することができず、大きな減収に繋がった。看護師、介護士の日頃からの健康観察や早期対応で、目標を達成することは可能と考える。
- ・今年度の新規入所者は32名、退所者は28名。入所準備を早めに行い、空床日数を減少させていくことが課題となっている。
- ・ICTの活用においては、見守りセンサーの定着を進めたがまだ十分ではない。記録業務の効率化の検討をしているが次年度は取り組みを進める。
- ・各ユニットのチーム力を上げるため、ユニットミーティングの定期的な開催をすること、一人ひとりのレベルアップのために研修への参加やその伝達の方法について次年度以降検討していくことが課題。

II 目標

項目	重点目標	実施内容
サービス	① 専門的な介護サービスの提供	・ 認知症ケア会議を毎月開催し、対応方法や関係機関との連携についても話し合いを行い、個別での対応に繋げることができた。 ・ 学習療法対象者は1名（対象者2名が亡くなられ、1名開始されている）。 ・ 看取り期を見極め、家族、主治医と共に看取り期のケアを多職種で対応することができた。 ・ 体調管理と異常の早期発見に努めたが、体調不良や感染症での体調悪化などで入院者数が増えた月があった。 ・ 定期的に多職種で情報共有をし、対応を確認した。褥瘡発生数は減少傾向だが、再発を繰り返す方の対応が課題である。 ・ 感染症対策を行い、安心して日常生活を送っていただけるよう取り組んだが、8月と1月の2回感染症が発生し、生活に制限のある期間があった。感染症予防やサービス提供の維持などについて検討を続ける。 ・ 歯科医師による評価は定期的に全入所者に実施し、助言をケアに活かしている。 ・ 毎月の歯科勉強会や特養ミーティングで助言・指導を受けケアに活かすことができた。 ・ 多職種による食事観察を行い、食事形態や食事時の姿勢、栄養補助食品等を検討し、経口摂取の維持・継続に努めている。
	② 楽しみながら、安心、安全、満足の得られる生活の提供	・ 毎月の調理活動で食の楽しみのある行事が実施できた。また、季節の行事の食事、おやつを提供もできた。 ・ 虐待についてアンケートを実施して振り返りを行い、特養ミーティングで不適切なケアについて話し合いを重ねた。接遇と共にサービスの質の向上について検討した。 ・ 毎月の接遇チェックリストでの振り返りや家族アンケートを取り、接遇のレベルアップに努めた。 ・ ふるさと訪問や季節ごとの外出行事などを実行できた。 ・ 第3回長寿健康祈願祭を開催し多数の入所者の参加があった。 (3月19日（みとくの日）三徳山三仏寺住職)
	③ 病院との連携をはかる	・ 入退院時の情報共有や入院中の情報収集を適宜行った。

能力開発	①	特養ミーティングで各種研修を開催し理解を深める	・ 以下の研修会を開催した。（リスクマネジメント、身体拘束・虐待防止、感染症対策、排泄ケア、口腔ケア、看取りケア、認知症介護）
	②	認知症利用者への対応力向上	・ 認知症介護実践者研修に1名参加し、修了。 ・ 全体会、特養ミーティングを通じて対応力の向上を図った。
地域	①	地域の保育園・小中学校・ボランティアとの交流	・ 感染予防に努めながら、生け花クラブを定期的に開催した。 ・ 賀茂保育園・みささこども園の運動会の見学、演芸ボランティアの受け入れをした。
	②	福生会ニュースを掲載する	・ 福生会ニュースを年間39回HPへ掲載した。（目標：月2回以上掲載）
業務	①	職員の健康維持	・ 腰に負担のかからない介助法の指導、実践を行い、福祉用具も活用し腰痛などの予防をした。
	②	職員の定着を図る	・ エルダー制他、指導体制の見直しが図れなかった。 ・ 勤務内容やマニュアルの見直しも含め修正できなかった。 次年度への課題。
	③	安定的経営を目指す	・ 入院者数：6.0名／日（目標：5.5名／日） 10月～1月にかけてが1日平均7.9人と入院者数が多くなってしまった。 ・ 早めの入所準備をし、退所から入所までの空床日数は少し減らすことができた。
	④	効率化を図る	・ 見守りセンサーの定着が十分にできなかった。担当を中心に進める。 ・ 勤務内容やマニュアルの見直しも含め、修正できなかった。 次年度への課題。

注 福生会ニュース = 社会福祉法人福生会のホームページにある情報発信ページ

<令和7年度入所者状況>

平均要介護度：3.9

退所者数：28名

（看取り19名、病院退所2名、他7名）

待機者数：56名（3/31現在）

入院者数：6.0名/日

空床日数：807日

※参考：令和6年度入所者状況

平均要介護度：4.0

退所者数：35名

（看取り11名、病院退所11名、他13名）

待機者数：38名（3/31現在）

入院者数：5.3名/日

空床日数：1,239日

I 令和7年度の状況

- ・年間退居者は5名で、入居者の入れ替わりが多い状況が続いている。主な理由は持病の悪化や家庭の事情による退居である。
- ・入居者の高齢化や支援の必要度が高まっており、サービス内容の変化が業務にも影響している。
- ・健康管理や事故防止、認知症対応などの専門知識向上のため、情報共有や検討会を積極的に実施した。
- ・営業活動の重要性は高いが、訪問時間の確保が難しいため、メールやFAXによる営業を実施。申込書の改訂や対策も行い、利用者獲得に努めた。
- ・アンケート調査により地域のケアハウスの認識や高齢者の状況を把握し、今後の取り組みに活かしていく。

II 評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	サービスの質の向上（全体）	・ミニ講座は年5回実施。栄養については栄養士による講座を実施できた。専門職への依頼は日程調整等が難しく、資料提供も困難な場合はケアハウス職員が資料を作成し実施した。
			・避難訓練の参加者は7～9名程度で、介護サービス利用等により不在者が多く、同じ方の参加が中心となっている。訓練時の放送が居室内に届かない課題があり、ナースコールを活用した一斉放送の導入を検討した。
	②	サービスの質の向上（個人）	・個別外出や外出支援を積極的に実施した。「鳥取砂の美術館」への日帰り旅行は好評であった。一方、外出を希望されない方や近場でも遠慮される方もおり、全員に外出機会を提供することは難しい状況である。
			・ご家族への近況報告は毎月10日までの発送としているが、遅れることがある。ケアハウス新聞の発行も同様に遅延している。職員が計画的に業務を進め、協力体制を整えることが課題である。
			・アドバンスケアプランニングの説明をミニ講座に取り入れた。内容の理解は得られているが、持病悪化を想像し気持ちが向かないという声が多い。個別の聞き取りは1名実施できた。「もしもの時」の説明以外のアプローチ方法を検討し、来年度も継続して取り組む。
能力開発	①	人材育成と資質向上	・健康管理、事故防止、認知症について定期的に事例検討を実施した。金銭の取り扱いや薬の管理方法を見直し、誤薬防止及び対応方法の周知を行った。実践を通して課題を把握し、随時改善を図った。居室内事故についても事例を基に対策を検討し、職員の危険予測力の向上に努めた。
			・施設外研修（レクリエーション研修）に参加したが、業務内で実践する機会が少なく十分に活かしていない。また職員研修への参加はできておらず、全体会の伝達研修も遅れて受講している状況である。
	②	接遇力向上	・サービス向上委員会の接遇表を活用し、途中で目標を見直しながら取り組んだ。多忙時には接遇が疎かになる傾向があるため、目標を意識し業務の中で継続して心がけるよう努めている。
			・アンケートの書式を見直し、質問内容や数を整理するとともに自由記入欄を拡充した。その結果、意見記入が増加し、食事やレクリエーションに関する要望が多く見られたほか、健康管理についての意見も家族から寄せられた。

地域	①	地域、保育園、学校との交流	・保育園の運動会応援は高齢化に伴い参加者が減少し、同じ方の参加が続いている。小・中学校との交流機会もなく、今後の課題である。施設外への参加希望者は少ないため、地域の方を招く形での交流を検討する必要がある。
			・地域交流の一環として「三朝町長選挙」「衆議院選挙」の不在者投票は実施せず、期日前投票により地域へ出る機会を設け、職員が個別外出として支援した。地域の催しには2名がマルシェや語りの会に参加したが、外出先でのトイレや移動への不安から、付き添いがあっても外出を希望されない方が増えている。
地域	②	地域貢献の実施	・「花いっぱい運動」の花の管理は実施できたが、新しい花の植え付けまでに時間を要した。職員体制や協力利用者の予定調整が難しいことが要因であった。
業務	①	安定的経営	・満床維持（初月15名）は未達成が4回あった。新規申込者は4名で、待機者は少ない状況である。 ・特養の様式を参考に申込用紙を簡素化した。添付書類は契約時提出とし、申込者の負担軽減と把握内容の充実を図った。 ・9月にオープンデーを実施したが、準備不足と広報の遅れにより参加申込はなかった。
			・訪問営業は1回、21事業所（病院含む）に実施。FAX案内は2回、36事業所に送付した。 ・パンフレットを改訂し、「入居のご案内」「ケアハウスQ&A」を作成。機関紙「太陽」に折り込み配布し、訪問以外の営業も活用した。 ・入居の問い合わせは年間42件であった。
	②	ホームページの活用	・福生会ニュースの作成が遅れ、投稿が月をまたぐことが多かった。記事作成が特定の職員に集中していたため、作業分担を行い早期投稿に向けた工夫をしたが、定着には至っていない。
			・パンフレットおよび申込用紙の内容を改訂し、印刷用データを更新した。あわせて写真も更新した。
	③	業務改善	・職員間の連携について、声かけと所在確認を徹底しながら業務を行うよう周知した。来客時や対応中で電話に出られない状況がありトランシーバー導入を検討したが、コスト面や運用面から保留とした。 ・業務量削減のため、ケース記録や生活相談員日誌をデータ管理へ移行した。 ・裏庭活用として、利用者の身体状況に応じた椅子使用での農作業環境（大型プランター等）を検討し、来年度実施予定である。
			・総務課運転部門や特養看護師の支援を受け、設備管理や利用者の体調管理を行うことができた。 ・行事食については栄養士や厨房の協力により、内容の充実を図った。 ・同法人のデイ、居宅、ショートステイと利用者情報や相談を積極的に共有し、連携を図った。 ・支援内容の多様化に伴い職員の業務が煩雑化しており、本来提供すべき支援を十分に行えない状況が生じている。また残業時間も増加しており、業務の効率化が求められる。

議案第 4 号

令和7年度 事業所別事業報告

事業所 【 通所介護事業所 】

I 令和7年度の状況

- ・令和7年度は新規利用者13名、利用終了者24名で、前年度より新規利用者は7名減少した。入院・死亡による終了が多く、新規利用者のうち4名は年度内に終了となった。
- ・冬季は積雪や体調不良、ショートステイ利用増によりキャンセルが多く、2月は大雪のため1日1人利用となった。
- ・平均利用者数は21名で、定員35名に対し稼働率は59.8%と低い状況。他事業所でも同様に利用が減少している。今後は営業活動の強化、活動内容の見直し、ケアマネジャーや家族との情報共有の充実、資質向上に取り組み、「選ばれるデイサービス」を目指す。

II 評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	利用者のADL、生活の質の維持・向上	・機能訓練を月平均290名（1日13.5名）実施。自宅での転倒事例を踏まえ、個々に応じたメニューの見直し・検討を行った。 ・転倒予防体操を導入し、利用者のADLに応じて福祉用具や介助方法の見直しを適宜実施した。
	②	楽しみ、やりがいのある活動の提供	・毎月の調理活動（昼食・おやつ）を充実させた。7月からは手作り昼食を職員も利用者と共に食べる日とし、好評を得た。梅干し・らっきょう・切り干し大根作りも実施した。 ・花見や紅葉ドライブに加え、県立美術館やたい焼き店への外出、ボランティア受け入れなど催しを拡充した。 ・塗り絵コンクールへの応募など新たな取り組みを行い、作品展示コーナーを設置し、活動意欲の向上に繋がった。
	③	家族・各事業所との連携強化	・新型コロナウイルス感染症の利用基準を見直し、療養期間の調整などにより家族の負担軽減につなげた。体調や利用時の様子について、家族や各事業所と連携し情報共有に努めた。 ・担当者会議64件、退院前カンファレンス11件に参加。ほかに文書や電話で情報提供を行った。 ・毎月1～2日に実績報告を実施。モニタリング用紙を見直し、内容を簡素化して提出している。
能力開発	①	職員の資質向上と人材育成	・ミーティング時に勉強会を実施（LIFEフィードバック、入浴介助、転倒予防体操、接遇、電話対応、認知症、虐待など）。動画や実践的な研修も取り入れた。 ・施設外研修（レクリエーション6名、人材育成・メンタルヘルス・データ連携各1名）に参加。施設内研修は年5回実施し、延べ27名が参加。外部研修内容はミーティングで共有した。 ・面談は年2回実施（夏は一部未実施）。個別指導は随時行った。
	②	接遇力とサービスの質の向上	・1月に利用者・家族向けアンケートを実施し、結果を報告（回収率98%）。対応可能な内容は改善し、今後の取り組みに反映した。 ・部署目標を見直し、個人目標を設定して接遇力の向上に努めた。課題はミーティングで共有し、意識統一を図った。 ・事故件数：年間24件（うち骨折1件） ・苦情件数：年間4件（接遇・送迎・介助方法）

地域	①	地域貢献と地域への発信	・他団体の依頼で健康教室に講師を派遣（年4回）、延べ20名が参加。 ・あいさつ運動1名、「介護の日」のティッシュ配布1名、キュリー祭に10名が参加。 ・福生会ニュースで行事や日常の様子を発信（年間99件）。
業務	①	利用者の確保	・利用者実績：目標26名/日に対し21.0名/日（要介護16.9名、要支援・事業対象者4.1名）。新規13名/年、終了24名/年。 ・デイ新聞とカレンダーを毎月作成し配布。新聞・ホームページに空き情報を掲載。リーフレットも作成し営業活動を行った。 ・キャンセル率は年間平均12%。入院やSS利用、冬季の体調不良・降雪の影響があり、2月は大雪で1日休業した。
	②	業務改善	・担当業務やモニタリング、行事準備の進捗を掲示し、共有しながら協力して業務を進めた。 ・連絡ノートやモニタリング用紙を見直し、業務の効率化と時間短縮に繋げた。残業時間の多さは課題として、今後も随時確認・相談し改善を図って行く。
	③	職員の健康維持及び福利厚生	・福祉用具の活用や2人介助を徹底し、腰痛予防に努めた。腰痛による欠勤はなかった。 ・車両事故1件（ケガなし）、労働災害0件。事故後は対策を検討し運転指導を実施。送迎前の体調確認を徹底し、安全確保に努めた。 ・全職員が年次有給休暇を5日以上取得した。

議案第 5号

令和7年度 事業所別事業報告

事業所 【 短期入所生活介護事業所 】

I 令和7年度の状況

- ・令和7年度は短期入所利用者は1日平均15.6人だった。
感染症発生時には受け入れの制限をしたため、8月（コロナウイルス）：1日平均15.1人、
1月（インフルエンザ）：13.9人と減少した。
- ・新規ショート利用者は64名。その内18名の利用者が継続して利用されている。
（定期利用5名、不定期8名、特養入所待ち5名）
46名の利用者については他施設への入所や入院、亡くなれたためなどの理由で利用が中止になった。
- ・医療依存度の高い利用者や重度の認知症の利用者が増え、専門職として、より高いレベルのケア、丁寧な対応を求められるが、必要な研修に参加しレベルアップを図っている。

II 目標

項目	重点目標		実施内容
サービス	①	認知症利用者への適切なサービス提供	・ 認知症日常生活自立度Ⅲ（※）以上の受入れは、月により35.0%～56.3%と推移し平均47.4%であった。 ・ 認知症ケア会議を毎月開催し、対応方法や関係機関との連携についても話し合いを行い、個別での対応に繋げることができた。
	②	利用者のニーズの把握と細かい対応の実施	・ 援助内容確認書を活用して、利用者の最新の状況を把握し、在宅での生活が維持できるよう機能維持に努めた。 ・ 発熱などの体調不良や急変時など状況が変わった利用者の対応についても家族やケアマネと連絡を取り、必要に応じて受診などに繋げることができた。 ・ 看取り対応については今後該当者ができることを想定し準備している。 ・ リーダー会などを活用し利用者の情報共有を行った。 ・ 利用中の状況を家族やケアマネに情報を提供した。（体調の変化があった場合や、家族が気になっている事についての経過報告など）
能力開発	①	認知症利用者への対応力向上（介護老人福祉施設と同様）	・ 認知症介護実践者研修に1名参加し、修了。 ・ 特養ミーティングでの伝達研修は実施できなかった。
地域	①	居宅介護支援専門員との連携	・ サービス担当者会議への出席率は100%達成。家族や関係機関との情報共有を行い、必要な援助に活かしている。
業務	①	利用者確保	・ 短期入所利用者は1日平均15.6名。上半期には1日平均19名の利用月もあり、空きベッドの活用ができた月もあった。 ・ 新規の利用は64名。ケアマネより利用依頼があった際は、積極的に受けるように努めた。
	②	夜勤職員配置加算の算定要件確保	・ 認定特定行為業務従事者（介護士の吸引、胃ろうの対応）の夜勤者配置は行えている（毎日1名）。

※ 認知症日常生活自立度Ⅲ＝日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ介護を必要とする。

< 令和7年度入所者状況 >

利用延べ人数 : 5,693名

平均要介護度 : 2.8

1日平均人数 : 15.6名

※参考：令和6年度入所者状況

利用延べ人数 : 5,689名

平均要介護度 : 2.8

1日平均人数 : 15.59名

議案第 6 号

令和7年度 事業所別事業報告

事業所 【 グループホーム 仁の里 】

I 令和7年度の状況

令和7年度入院延べ日数19日（令和6年度44日）令和7年度退所後空床延べ日数34日（令和6年度63日）。例年に比べて入院日数、退所後空床が半分以下となった。令和7年度は平均介護度2.3と大幅に下がり、医療依存度の高い入所者も減ったことから入院者の減少に繋がった。また退所者3名に対して1人当たりの入所までの準備日数も10日前後と比較的スムーズに入所ができた。

II 評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	利用者のニーズに合わせた個別支援の充実	・毎月調理活動実施。活動時は利用者ができる範囲で参加していただけるよう支援した。外出行事も定期的の実施し、季節に応じた外出、故郷訪問等実施。 ・毎日役割の機会を設け（洗濯物たたみ、洗濯物干し、シーツ交換、調理、清掃、草取り等）可能な範囲で活動できるよう支援した。
	②	心身機能を維持し、活力のある生活を送る	・1日1回の集団リハビリの実施に加えて個別リハビリも実施（谷口病院PTに毎月指導計画書に沿った訓練指導をしていただいている）（生活機能向上連携加算Ⅱ対象9名）
	③	認知症症状に対する適切な対応・安全管理の徹底	・毎月ミーティング時に認知症ケア会議を実施した。 ・重大事故なし。転倒事故、誤薬事故についてミーティングの時間を活用し、再発防止に努めた
能力開発	①	学ぶ意識・資質の向上を目指す	・今年度コスト削減について研究発表を行った。ミーティング時にコスト削減（食材費、水道光熱費等）、運営（予算管理）について勉強会を行った
	②	認知症に関わる知識の習得	・外部研修レクリエーション研修1名（11月）介護支援専門員更新研修1名参加。認知症に関する外部研修の参加なし
地域	①	運営推進会議の開催	・運営推進会議（2カ月に1回）開催
	②	防災訓練の実施	・日中想定避難訓練（6月）倉吉消防署立ち合いの下実施。 ・夜間想定避難訓練（11月）山田地区消防団と合同訓練実施。
	③	地域に貢献する	・認知症カフェ7月のみ開催（三朝町福祉課職員協力の下開催）参加者11名。
	④	地域を理解し信頼関係を築く	・令和7年度山田地区総事3回、一斉清掃1回参加（職員のみ） ・1月山田地区とんどさんに参加
業務	①	働きがいのある環境を整える	・職員全員が年5日以上の子次有給休暇取得達成。 ・時間外勤務について全体会以外での残業はほぼなし（季節によって、夏場は草刈、冬場は雪かき等残業はある）
	②	安定的な経営を目指す	・令和7年度年間入院延べ日数：19日 ・令和7年度年間空床延べ日数：34日
	③	接遇力の向上	・「業務中の私語をなくす」という目標に対し、各自が私語を慎むよう意識するとともに職員同士で注意し合った。また理事会で指摘のあった挨拶についても評価しながらきちん行った。

議案第 7 号
令和7年度 事業所別事業報告
事業所 【 賀茂保育園 】
I 令和7年度の状況

令和7年度は新型コロナウイルス感染症対応の徹底した対策を継続したことにより、園の近くではインフルエンザ等が大流行するものの、園での流行をくい止めることができた。この成功を自信にして専門機関と連携しつつ対策を継続したい。また、1月早々の地震でも大きな混乱もなく保育を継続し、無事に保護者に引き渡すことができた。これも日頃の訓練の成果と考え、新たな自信となった。

一方で、三朝町の出生数は減少を続けており、適正な園児数の確保が難しくなっている。この課題に対応するためには、質の高い保育の提供に加え、賀茂保育園の特色である論語の素読やお茶会、坐禅を通じた心の教育、発達年齢に応じた運動遊びによる体作り、賀茂地域協議会をはじめとした地域との積極的な交流、さらには「とっとり自然保育認証園」として子どもの生きる力を養う保育を継続して行くことが不可欠である。また、これらの取組をホームページ等により積極的に発信することで、保護者の満足度をさらに高め他の市町からも「賀茂保育園に通わせたい」と選ばれる保育園を目指す。（保護者アンケート結果によれば満足度100%である）

しかし、近隣に全国チェーンの保育園開園による競争の激化や本園職員の新たな採用など課題も山積していることは否めず、本園の課題を個々に解決しつつ競争に勝ち抜く覚悟を職員全員で共有し臨むことが重要である。

II 目標

項目	重点目標		実施内容
サービス	①	質の高い保育の提供	・個の見取りと適切な保育に努める ・年齢到達目標を見据えた保育の実践 ・小学校に向けて架け橋プログラム（接続カリキュラム）の確実な実施
	②	経営方針の明確化と特色づくり	豊富な自然体験活動をベースとして （知）よく考え、創造性、探求心を持った子 ・自然散策、体験活動、英語活動、創作活動 （徳）豊かな心と表現力を持った子 ・論語、坐禅、お茶会、科学で遊ぼう （体）健康でたくましい子 ・運動の時間の設定、食育活動、歯みがき
	③	ネットの活用と積極的な情報発信	・園だより、クラスだより、論語だより、食育だより、人権だより、絵本通信等の積極的な発行 ・HP（令和7年度edumap学校ウェブサイトでも、常に日本1を維持）やマチコミメールを活用した情報発信
能力開発	①	職員の資質向上	・自己評価に基づく課題の設定と改善 ・研究テーマの設定とグループでの取り組みと実践 ・他園との年齢別検討会の実施
	②	研修への参加	・キャリアアップ研修等の専門分野の受講による資質の向上 ・県、町主催の研修会参加による資質の向上
	③	外部への公開	・県教委、町教委、他園保育士による指導助言 ・公開保育を年1回以上実施
地域	①	他園・小・中学校との交流	・町内の園児との交流会 年3回以上実施 ・三朝小学校1年生、5年生との交流それぞれ年2回実施 ・三朝中学校トライワーク、保育体験の受け入れの実施 ・国際交流 台湾石岡区土牛国民小学校附属幼稚園との交流を継続
	②	福祉施設・地域との交流	・老人福祉施設（三喜苑）やレスポワール訪問の実施 ・賀茂地域協議会との交流（わたげカフェ、ちまきづくり、運動会、生活発表会等）の実施
	③	地域社会への貢献	・小、中学校の夏休みボランティア活動の受け入れ ・地域でのイベント（JAまつり、キュリー祭、町民文化祭）への園児の出演、作品展示などの協力 ・年4回以上オープンデー（未就園児対象）の実施
業務	①	職員間の協力体制	・園行事等の協力体制の確立 ・クラス、未満児、以上児担当など、小規模のミーティングの実施 ・職員連絡会、運営ミーティングの実施
	②	保護者との信頼関係作り	・送迎時を利用した園児の保護者との情報共有 ・保護者向け園行事、保育参観の実施 ・クラス懇談会、個人懇談の実施 ・気にかかる園児の保護者と積極的な懇談の実施や外部専門機関と接続
	③	安定的な経営	・園児確保に向けた努力 ・消耗品、水光熱費等の削減と効率化 ・資源再利用を意識した取り組み

I 令和7年度の状況

今年度の延べ利用者数は2,647人で令和6年度の3,169人と比較し522人の減となった。感染症対策のためのキャンセルはあったが、新型コロナウイルス感染症による休業はなかった。平均要介護度は前年度の1.69から1.59にやや減少し、通所介護での利用者が前年度の2,394名から2,136名に減少。前年度からの収入減に繋がった。また、独居や高齢で重い持病のある利用者が、入院や施設入居、死去等の理由で利用終了となった方もあった。今後も各関係機関との信頼関係を深めるとともに業務改善にも取り組み、職員の質やサービスの質を向上させ、選ばれる事業所を目指していく。

II 評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	利用者に応じた機能訓練の実施	- 機能訓練計画書：延べ 92名作成 - 訓練実施者数：延べ2,341名 - 評価者数：延べ244名 - 午前と午後にラジオ体操やテレビ体操、生活リハビリ体操等を実施した。 - 移乗介助等が必要な方に対してスライディングボードを活用。 - ミーティングで介助方法の確認を行い、統一を行った。 - 職員の腰痛での休みはなく、介助中の事故もなかった。
	②	能力や好みに応じた活動の提供	- 興味関心チェックリスト作成し、個人の好みに合わせた個別活動の充実を図った。（読書、塗り絵、手芸、パズル、作品作り、囲碁、散歩等） - 外出行事で道の駅や県立美術館へ出かけたり買い物やドライブも実施。大正琴や踊りのボランティアによる演芸会も開催。 - 手作りの昼食やおやつの日を設け、調理活動を実施。選択メニューやリクエストメニューも実施した。
	③	各事業所との連携強化	- サービス担当者会議延べ37件参加。その他照会・情報提供あり。 - 毎月翌月の1日から2日までには実績報告を行った。各事業所へのモニタリング評価も毎月遅れなく提出する事ができた。 - 利用者の様子や空き情報を掲載した広報誌を年4回発行し事業所に配布した。パンフレットを刷新し事業所やケアマネに配布。広報活動を継続。 - 変わりがあれば迅速にケアマネ等関係機関に報告し、信頼関係の構築にも努めた。
能力開発	①	資質向上と人材育成	「話し方、聞き方」「ADLとBI」「不適切ケア」「セルフケア（腰痛）」「メタ思考」「ポジティブ思考」「職業倫理」「入浴介助（2回）」「BIとADL維持等加算」「レクリエーション（2回）」について、12回通所ミーティング内で勉強会を実施した。それぞれ職員が講師となり、その後のケアに活かせる具体例も挙げ取り組んだ。 - 全体会当日は若干個人の事情等での欠席があったが、後日動画視聴等行い参加率は100%。施設内研修の参加率は94%（パート職員の参加もあり）。外部研修はレクリエーション研修に2名、リハビリ研修に1名が参加した。 - 年2回個人面談を実施。課長と主任による面談を実施した。
	②	サービス向上、利用満足度を上げる	- 利用者、家族向けアンケートを11・12月に実施。1月に結果報告。良い以上99%。リハビリについては別途アンケートを実施し良い以上100%。 - サービス向上委員会を中心に毎月接遇評価を実施。今年度は「相手の気持ちになって声掛けをする」を目標に取り組み接遇力の向上に繋がった。 - 利用者の変化（体調など）の早期発見に努め、迅速な報告を行った。事故発生件数は5件（転倒）。骨折等の重大事故や介護中の事故はなし。
地域	①	地域貢献と地域への発信	4月と10月の伊木地区の共同作業にそれぞれ2名ずつ参加した。 - 福生会ニュースを毎月1～4件、計24件掲載した。

			・ 高校生のボランティア2名、演芸ボランティア2グループ来苑。
業務	①	安定的な経営	・ 利用者数実績：介護保険利用者目標13名/日に対し、10.0名/日。 (要介護8.28名/日 要支援・事業対象者1.70名/日) ・ 収入月平均1,802,089円、年間延べ利用者数2,647人、 平均稼働率50%/月。年間稼働日数258日。大雪による休業が1日。 新型コロナウイルス感染症による休業はなかった。 新規利用者4名、利用終了者9名（年間実人数）。 ・ 各種加算を取得（科学的介護推進体制加算、個別機能訓練加算（Ⅰ）イ、 個別機能訓練加算（Ⅱ）、サービス提供体制強化加算（Ⅰ）、 入浴介助加算（Ⅰ）、介護職員処遇改善加算（Ⅰ） 特定処遇改善加算（Ⅰ）、口腔・栄養スクリーニング加算（Ⅰ））
	②	業務改善	・ 各利用者のアセスメントや個人情報を入力。各報告書や計画書等の進捗情報 や稼働率の統計等のデータを活用し、課題分析や業務削減に繋げた。 ・ 業務マニュアルの検討、作成を行った。来年度も継続し都度修正していく。 ・ 年度初めに担当に業務を分担した。毎月業務が遂行できているか確認し、担 当によって遅れが出る場合は、協力して遂行した。
	③	職員の健康維持及び福利厚生	・ 職員全員が年5日以上之年次有給休暇を取得できた。 ・ 会議や研修以外に、欠員が出た場合や、書類作成等の残務のため多少の 残業はあったが、1日1時間を超すことはなく上限規制を遵守できた。 ・ 労働災害の発生はなかった。 車両事故1件あり。（送迎中道路脇の石にバンパーをぶつける）

※BI（バーセルインデックス）・・・日常生活動作の評価指標

議案第 9号

令和7年度 事業所別事業報告

事業所 【居宅介護支援事業所】

I 令和7年度の状況

令和6年度の介護報酬改定では、「地域包括ケアシステムの深化・推進」が掲げられ、利用者が住み慣れた地域で生活を継続できる体制の整備が進められている。居宅介護支援においては、質の高いケアマネジメントと切れ目のないサービス提供に加え、認知症高齢者や在宅医療ニーズ、ヤングケアラー、障がい者、生活困窮者等、多様な支援対象への対応が求められており、介護支援専門員には高度かつ専門的なスキルが必要とされている。

三朝町においては、人口減少が続く一方で高齢化率は40%を超えており、特に団塊の世代にあたる前期高齢者の増加がみられる。要介護認定率は約20%で推移しており大きな変動はない。当居宅介護支援事業所においても、要介護利用者は40件前後、要支援利用者は10件前後で推移しており、利用者数の大きな変動はなく概ね安定している状況であった。

一方で、介護支援専門員1人あたりの担当件数の拡大や、国が推進する電磁的方法の活用に向けた説明会等が実施されたものの、年度内の実運用には至らず、業務効率化による業務量および労働時間の削減にはつながらなかった。

このような中、法令を遵守しつつ、質の高いケアマネジメントの提供と業務量の適正化、さらに働きやすい職場環境の整備を両立させることが当事業所の課題である。本年度は一定の成果が見られた取組があった一方で、十分に実施できず課題として残った事項もあり、今後の改善に向けて継続した取組が必要である。

II 評価

項目	重点目標		評価
サービス	①	利用者の自立を支援する一連のケアマネジメントを適切に行う	・課題分析・評価を丁寧に行い、その結果にもとづき整合性のあるケアプラン作成に努めるとともに、利用者・家族が理解しやすいケアマネジメントの提供を行った。また、説明にあたっては相手の表情や理解度を確認しながら、丁寧な対応に努めた。 ・非常時においても継続的なサービス提供が可能となるよう、記録の整備を行うとともに、利用者本人及び家族の状況を踏まえ、今後の変化を予測・想定した支援を行うことに務めた。
	②	医療との連携を強化し、日々の健康管理と入退院支援の充実を図る	・利用者の医療の状況を把握し、適宜受診状況、病状、処方薬の確認、服薬状況等確認し、必要に応じて支援や調整を行った。 ・入退院時だけではなく、日頃から医療機関や主治医との連携を図り、ケアプランへの反映に努めた。 ・医療関係者と連携を図り、医療ニーズへの対応力を強化した。
能力開発	①	能力や業務の現状に合わせた目標を持ち、達成を目指す	・外部研修や指導機会は積極的に参加し、自身の学びの機会としたり、他事業所の介護支援専門員と顔の見える関係づくりと情報交換を行った。（介護支援専門員実務研修・更新研修・主任介護支援専門員研修ファシリテーター、主任介護支援専門員更新研修受講兼講師+ファシリテーター、ケアプラン点検員研修、成年後見人登録更新研修等）
地域	①	利用者が住み慣れた地域で生活が続けられるよう、地域ができる支援を知り、つながりを作る	・利用者・家族の状況に応じて、地域の民生児童委員との連携や愛の輪協力員の活用、緊急時対応キットの再確認等を実施し、見守り体制の強化に努めた。 ・災害時の対応として個別避難計画の策定は具体的な取組に至らなかった。
業務	①	利用者確保（介護報酬請求利用者を、要介護を45人／月維持（要支援・事業対象者は要介護に換算すると3分の1人として）	・適切なケアマネジメント実施のための管理・調整を毎月請求時行った。 ・法的根拠に基づいた仕事ができるよう、適宜運営基準を確認した。運営指導があったが指摘事項はなかった。 ・要介護利用者：月平均39件、要支援・事業対象者利用者：月平均10件、合計49件（要支援・事業対象者を1/3換算すると42.4件）
	②	働きやすい職場環境をつくる	・毎月の業務を計画的にできるように努めた。予定外の相談や緊急の対応は多かったが、優先順位を判断し業務を行った。 ・他の居宅介護支援事業所の介護支援専門員や他事業所の担当者と適宜相談や情報交換を行い、課題や困難事例を抱え込むことなく、早期の対応に努めた。